

新品種候補 (2012年 1月作成)

育種事業課題名：てんさい新品種候補系統「HT32」の概要 (722511)

担当部署：北見農試・研究部・地域技術グループ、十勝農試・研究部・地域技術グループ、
中央農試・作物開発部・作物グループ、上川農試・研究部・地域技術グループ、
北農研センター・畑作研究領域、北海道てん菜協会

キーワード：テンサイ、高糖型品種、そう根病抵抗性、褐斑病抵抗性、不純物価

1. 特性一覧表

系統名：「HT32」 組合せ：(HI0378 × HI0377) × HI0341

- 特性： 長所
1. 糖量が多い。
 2. そう根病抵抗性、褐斑病抵抗性が“強”である。
 3. 黒根病抵抗性が“やや強”である。
 4. 不純物価がやや低い。

短所

普及見込み面積：平成24年度 300 ha、平成25年度 2,500 ha

試験場所	北見農試、十勝農試、中央農試、北農研センター、北海道てん菜協会		
調査年次	平成 21 ~ 23 年		
品種・系統名	HT32	モノホマレ(標準品種)	クローナ(対照品種)
倍数性	二倍体	二倍体	三倍体
種子の胚数	単胚	単胚	単胚
胚軸の赤色個体	少	多	多
草姿	やや開平	直立	やや開平
葉長	中	長	中
葉数	やや少	やや多	やや少
葉形	やや皮針	皮針	楕円
葉色	やや濃緑	やや濃緑	緑
葉面縮	やや少	中	中
葉身の大きさ	やや小	やや小	中
葉柄長	やや短	やや長	中
葉柄の太さ	中	やや細	やや細
根形	円錐	円錐	やや短円錐
根重(t/10a)	7.01 (105)	6.68 (100)	6.85 (103)
根中糖分(%)	16.79 (106)	15.86 (100)	16.31 (103)
糖量(kg/10a)	1,174 (111)	1,059 (100)	1,115 (105)
不純物価(%)	4.49 (74)	6.06 (100)	5.63 (93)
修正糖分(%)	14.82 (112)	13.27 (100)	13.91 (105)
修正糖量(kg/10a)	1,029 (116)	888 (100)	943 (106)
アミノ態窒素(meq/100g)	2.20 (86)	2.57 (100)	2.43 (95)
カリウム(meq/100g)	3.76 (78)	4.81 (100)	4.69 (98)
ナトリウム(meq/100g)	0.65 (64)	1.01 (100)	0.82 (81)
抽苔耐性	強	強	強
そう根病抵抗性	強	やや弱	—
褐斑病抵抗性	強	やや弱(やや強)	弱
根腐病抵抗性	やや弱	やや弱(弱)	弱
黒根病抵抗性	やや強	中	中

参考品種との比較(平成22~23年)

	HT32	モノホマレ	ブルーデンR
根重(t/10a)	7.15 (106)	6.73 (100)	6.35 (94)
根中糖分(%)	15.85 (106)	14.98 (100)	15.78 (105)
糖量(kg/10a)	1,133 (112)	1,008 (100)	999 (99)
不純物価(%)	5.74 (73)	7.86 (100)	8.12 (103)

注1) 形態的特性は北見農試の直播栽培による成績。

2) 根重、根中糖分および糖量は、北見農試、十勝農試、北農研センター(平成21~22年)および北海道てん菜協会(3か所)の延べ17か所平均で、括弧内は「モノホマレ」に対する百分比。

3) 不純物価、修正糖分、修正糖量、アミノ態窒素、カリウムおよびナトリウムは、北見農試(平成21年)、十勝農試(平成21年)、北農研センター(平成21~22年)および北海道てん菜協会(3か所)の延べ13か所平均。

4) 特性検定は抽苔耐性(北見農試、平成22~23年)、そう根病抵抗性(北見農試、平成21~23年)、褐斑病抵抗性(十勝農試、平成21~23年)、根腐病抵抗性(十勝農試、平成22~23年)、黒根病抵抗性(中央農試、平成21~23年)の成績。褐斑病抵抗性・根腐病抵抗性における「モノホマレ」の括弧内は品種登録時の評価。「クローナ」はそう根病抵抗性を持たないため、特性検定試験には供試していない。

5) 参考品種との比較は、根重、根中糖分および糖量は延べ11か所平均、不純物価は延べ7か所平均である。

2. 特記すべき特徴

「HT32」は高糖型品種の「クローナ」より根中糖分がやや高く、糖量が多い。そう根病抵抗性および褐斑病抵抗性が“強”、黒根病抵抗性が“やや強”で、いずれも「クローナ」より強く、耐病性が優る。また、不純物価がやや低く、製糖品質が優れる。

3. 優良品種に採用しようとする理由

てんさいの根中糖分は原料の買入れ単価に大きく影響することから、低糖分になりやすい圃場では糖分向上対策が求められてきた。糖分向上対策のうち、窒素肥料の減肥は根重の低下を引き起こしやすことから、根中糖分が高い高糖型品種の作付けが最も有効である。しかし、「クローナ」を含む高糖型品種のほとんどはそう根病抵抗性を持っておらず、唯一そう根病抵抗性を持つ高糖型品種の「フルーデンR」は現在の優良品種の中で最も糖量が少ないレベルにある。

「HT32」はそう根病抵抗性を有し、「クローナ」と比較して根中糖分がやや高く、糖量が多い。また、褐斑病抵抗性が“強”、黒根病抵抗性が“やや強”であり、いずれも「クローナ」より強く、これらの病害に対する被害軽減が期待できる。さらに、不純物価が「クローナ」よりやや低く、製糖品質が良い。

以上のことから「HT32」を「クローナ」に置き換えるとともに、糖量が少ない高糖型品種にも置き換えて低糖分圃場に普及することにより、農家所得の向上およびてんさいの安定生産に寄与できる。

4. 普及見込み地帯

北海道一円

図 「HT32」の糖量

●:てん菜輸入品種検定試験、
品種連絡試験成績(平成21~23年)
(対「クローナ」百分比表示)

○:輸入品種現地検定試験成績
(平成22~23年)
(対「モノホマレ」および各地域の
比較品種に対する百分比表示。
斜字体が各地域の比較品種対比。
各地域の比較品種は、
真狩村「フルーデンR」、
美瑛町「かちまる」、斜里町「レミエル」)



5. 栽培上の注意

なし